

I 青果情報

1 8月下旬～9月中旬の経過

気 象	8月下旬は、旬の前半を中心に高気圧で覆われて晴れた日が多く、旬平均気温は北・東・西日本では平年より高かった。一方、旬の後半では北・東日本日本海側は前線等の影響を受け、また、沖縄・奄美では台風第18号、第20号等の影響を受けたことから、これらの地域の旬降水量は平年より多かった。 9月に入ると、上旬は台風第24号や本州南岸に停滞した秋雨前線等の影響で曇りや雨の日が続いた。その結果、降水量は北日本・西日本日本海側を除き平年より多くなり、また、旬間日照時間は東・西日本太平洋側で記録的な寡照（平年比30%、41%）となるなど、全国的に平年を下回った。北・東日本は曇雨天が続いたことと冷涼な空気の流入により、平年より旬平均気温は低くなった。 中旬になると、旬平均気温は西日本で平年より高かった。旬降水量は東日本太平洋側で平年より多く、北日本では少なかった。旬間日照時間は東・西日本で平年より少なかった。
-----	---

野菜類

入荷量	「キャベツ類」「たまねぎ」「レタス類」を中心に入荷。 東日本は長雨・曇天・低温の影響で「レタス類」「はくさい」「ほうれんそう」等の葉物を中心に生育停滞や病害が発生し、入荷量減少が目立った。また、北海道での大雨に伴う土砂崩れで「ばれいしょ類」「たまねぎ」「にんじん」等を運ぶ貨物列車及び船便が運休となり、物流の乱れが発生した。 野菜全体では、8月下旬から9月中旬までの入荷量は110,283t（前年比99.6%）と前年並であった。
相 場	長雨・曇天・低温の影響で供給不足となった葉茎菜類や果菜類を中心に相場が上昇した。一方、比較的安定した入荷となった「だいこん」「ばれいしょ類」「たまねぎ」は他品目の代替で需要が伸び、堅調な販売となった。 野菜全体では、8月下旬から9月中旬までの価格は290円/kg（前年比89.6%）と前年をかなり下回った。

果実類

入荷量	「日本なし類」「ぶどう類」「りんご類」を中心に入荷。 「りんご類」は青森県産が天候被害もなく前進・大玉傾向となり、少なかった前年を上回る入荷が続いた。「かき類」も生育順調で、前進傾向となった。前進傾向が続く「日本なし類」は多数を占める「豊水」が9月中旬には減少し、期間全体では前年比やや増（104%）に留まった。 果実全体では、8月下旬から9月中旬までの入荷量は29,108t（前年比101.8%）と前年並であった。
相 場	販売金額は「ぶどう類」「日本なし類」「もも類」の順に大きかった。 「ぶどう類」「日本なし類」は荷物が集中したことで荷動きが鈍化し、販売苦戦となったが、「シャインマスカット」は大房商品が好調な販売となった。果実全体では、8月下旬から9月中旬までの価格は629円/kg（前年比95.9%）と高値となった前年をやや下回った。